

中国戦国時期青銅器銘文の史料化に関する一試論

—三晋紀年銅器銘文の字形分析を中心に—

下田 誠

はじめに

本稿は中国戦国時期における青銅器銘文の史料化の一端について論ずる。ここで述べる戦国青銅器銘文の史料化とは、考古出土遺物あるいは伝世品に基づく有銘資料を収集・整理し、銘文真偽の弁別や器銘の年代判断、古文字の考証・解釈、文例研究などを通じて、利用可能な「史料」とし、時代像の再構築を目指す試みである。¹⁾

別の表現をすれば、一つ一つの遺物・文字は、いまだ歴史を紐解く素材とはなっていない。上記の作業を経て、時代の特質を読み解く「史料」になっていく。

戦国時代の政治や社会を解明するために、近年では『史記』や『戦国策』、先秦諸子のような既存文献史料とともに、多くの出土文字資料が使用されている。法律や書物を記した秦簡・楚簡などの簡牘資料はよく知られるが、そのほか青銅器や貨幣、印章、陶器、漆器などに記された文字も貴重な同時代資料である。

本稿では具体的に研究を進めていくため、対象を限定する。本稿は、戦国時代中原に国家を形成した三晋（韓・

魏・趙）の青銅器銘文を通じて、史料化の過程を述べていく。三晋の青銅器銘文は戦国前期から中後期にかけて銘文形式に違いがあり、ここでは中後期の紀年を記す紀年銅器・紀年兵器銘文、二・三六件を取り上げる。

筆者は青銅器銘文の史料化について、およそ次の一〇の基準が存在すると考えている。

1. 墓葬と共伴器
2. 型式
3. 辞銘格式
4. 紀年（王侯在位年数）
5. 人名
6. 機構と官職
7. 地名（県名）と帰属
8. 特殊用語
9. 字形
10. 真贋

これはまだ熟さない考えを記すものであるが、董作賓「甲骨文断代研究例」などを参照にするものであり、古典的な方法に属する。⁽²⁾ただし、戦国時代の青銅器銘文の研究は一九七〇年代以降、甲骨・金文学の方法を応用して進められてきた分野であり、古典的な方法を再確認しながら、研究を進めることも許されるだろう。

本稿ではなかでも9.としてあげた字形に注目する。本論は、三晋の紀年銅器銘文に記された代表的な文字である「年」・「命」・「庫」・「帀（工帀）」（合文のため一字とみなす）・「冶」という五文字を整理分類して、国別や編年に役立てようとしている。ただし「冶」字はかつて研究をおこなっているので、その成果を吸収し、新しい材料についてはその際の基準を利用した。⁽³⁾

この五文字の研究に関して、本稿は「先に分類して、その後編年をおこなう」という方法を貫いた。筆者はこれは中国の古文字研究が築いてきた成果であると考えている。⁽⁴⁾

なお、本稿は筆者のこれまでの研究同様、兵器銘文を中心とした。それは資料の量が多いことと、一定の型を持っていることによる。本稿のように、同じ文字を収集して、その字形の分類をおこなう場合には、兵器銘文を基準にしたほうがよい。実際、先達もそのように進めてきたのであり、とくにこれまでは工人（器物の製造者）を意味する「冶」という文字や製造を意味する「造」といった文字を整理、分類し、国別に役立てる研究が存在した。⁽⁵⁾

字形への着目は三晋文字研究の進展の帰するところであり、先見を廃し、まずは虚心に分類作業をおこなう。⁽⁶⁾

(1) 三晋紀年銅器銘文に見える「年」字の分類

「年」字は甲骨・金文に多数見られる。『説文解字』卷七上に「穀、孰（熟）するなり」とあり、「禾に従い千の声」というが、甲骨・金文では「人」に従う。甲骨文では「東土年（みづか）を受くるか」（合集九七三五、本稿末略称一覽参照）。
図一・一）と收穫を指している。西周金文に至り、年数の意味（紀年銘）が出現し、西周晩期の頌壺（集成九七三一、図一・二）は「唯れ三年五月既死覇甲戌」と始まり、「頌其れ万年眉寿、畷（な）く天子に臣となり、靈終ならんことを。子々孫々、宝用せよ」と結ぶ。この「年」字も人に従う。春秋中期と見られる曾伯鞮簠（集成四六三一、図一・三）には「万年眉寿無疆、子々孫々、永く宝用の享とせよ」とあり、この「年」字は「千」に従う。白川静氏は春秋期に至って、はじめて人の下部に肥点を加えるようになり、「千」に従うという意識が生じたという。⁽⁷⁾ 邾宣公（『春秋』襄公十七年に死去という）時代の邾公榿鐘（集成一四九、図一・四）「万年」は「壬」に従う。⁽⁸⁾

三晋銅器に近い資料もみておくと、春秋後期、晋国韓氏の盟誓の遺物とされる温鼎盟書（図一・五）と前三〇九年あるいは前三〇八年とされる中山王響鼎（集成二八四〇、図一・六）はともに「千」に従う。秦兵器はほとんど「千」に従う（図一・七）。こうした「年」字の展開をふまえ、筆者は戦国三晋の青銅器銘文に見える「年」字を下記のように分類した。

整理した銅器は表一「三晋紀年銅器一覽」を参照。全二二六件（表には偽刻と見られる二一件を含む二五七件を整理）である。そのうち「年」字の出現回数は二二七回（一回は同一器の蓋・器や胡・内などに複数回出現するも

の、「年」字のない銅器は七件、「年」字の判別が困難な器物は三件である。

図一 甲骨・金文・石圭に見える「年」字



図版出典（図は一部加工を加えている）

- ① 甲骨文（合集九七三五）
- ② 頌壺（集成九七三二）
- ③ 曾伯簠（集成四六三二）
- ④ 邾公
輕鐘（集成一四九）
- ⑤ 温県盟書（T1坎1・二一八二、文物一九八三・三、八四頁）
- ⑥ 中山王鼎（集成二八四〇）
- ⑦ 十五年上郡守戈（集成二一四〇五）

A類1式 八四件（韓三四件、魏三二件、趙一〇件、未定八件）「禾」に従い「人」に従う。五一番「表二」「年」字編年表参照」は円形の肥点を交差部分にもつ。全体として人間の姿を象るようである。「禾」の部分、垂れた穂の形状（第一画）について、「ク」のように角を二箇所もつもの（五番、三五番「表二」、五二番「表二」、一五一番、二二四番、一三一一番、二四三番「表二」）、「ㄩ」のように逆U字を描くもの（六三三番「表二」、一一三番、一二二一番）、「^」のように逆V字を描くもの（一番、一〇七番、一六六番「表二」、二〇七番）がある。「ク」の形は韓・魏に多く見られ、逆V字の例は後期の趙器に見られる。この点、A類2式とも関わる¹⁰⁾。

「人」の部分は「亼」のように作るもの（九番、三五番「表二」、六〇番、八〇番、一〇七番、一四五番、一九六番）と、「人」のように作るもの（三八番、一六五番、一二七番「表二」、二三五番、二四五番）とある。ここで注目

しているのは角度や方向である。「1」は鄭韓故城兵器ほか韓器に多く、「人」に作るのはB類1式とともに魏器に多い。

A類2式 七三件（韓一三件、魏二九件、趙二七件、未定四件）「禾」に従い「千」に従う。戦国中期前半には二八番「表二」、一九七番、二〇〇番など魏器に見られる。A類1式と同じく「禾」字の起筆に注目すると、「ク」に作るもの（一六二番「表二」、一九一番、二〇三番、二五二番、二五六番）、「口」に作るもの（二七番、六七番「表二」、二〇八番、二三七番、「ハ」に作るもの（六五番「表二」、一一八番「表二」、二三五番、二三三番）がある。本類型は戦国中期後半から後期にかけての趙器に集中する。

A類3式 八件（韓六件、魏一件、趙一件）「禾」に従う。「人」「千」の省略。最後に横画が入らないもの（四四番「表二」、六二番「表二」と、横画が入るもの（二九番、七四番）がある。本類型は韓器に一つの特徴をみる。袁国華氏は『包山楚簡』に見える本類型と同様の字形（二二七簡・一六四簡）について、「千」は「禾」字の筆画を借用して省き減らしたものである、という¹¹。

B類1式 三九件（韓一〇件、魏四件、趙二四件、未定一件）「禾」の初画が「×」の右上筆画とつながる。「人」に従う。二三番「表二」・七六番「表二」は戦国中期の韓器である。A類1式と同じく「人」の角度・方向に注目すると、「1」に作るもの（四八番、五八番、六九番、七〇番、一〇二番、一二三番「表二」、一三四番、一三七番）と「人」に作るもの（一九番「表二」、二〇番、一二二番、一二六番）がある。

実際、戦国後期の趙器には、一一〇番・一三九番「表二」のように「禾」の第一画が「×」の右上筆画と連結するものより、その指向をもつもの（一一四番、一二〇番、一二九番「表二」、一三八番、一七七番）の方が多い。

B類2式 二一件（韓四件、魏八件、趙八件、未定一件）「禾」の起筆が「×」の右上筆画とつながる。「千」に従う。

本型式は戦国中期前半の魏器（二二一番「表二二」、一四九番、一八〇番、一九八番、二五四番）・韓器（二六番、三三番、一四三番「表二二」）、戦国中期後半から後期にかけての趙器（一四七番、一四八番「表二二」、一五六番「表二二」、一五七番、二二九番）に見られる。

C類 二件（魏一件、未定一件）その他。ともに円を描く。一四番は「千」の横画の部分、二〇一番は「×」の下半分と「千」の横画が一体化している。

（2）三晋紀年銅器銘文に見える「命」字の分類

「命」字は『説文』卷二上に「使うなり。口に従い、令に従う」という。卜辞・西周金文は「令」によって「命」の意味を示し、古くは「令」・「命」は一字であった。「命」字の出現は西周中期以降とされる。⁽¹²⁾ また「令」字は『説文』卷九上に「号を発するなり。△・□に従う」という。「□」は人が跪いて命を受ける形のようなのである。武丁時期の卜辞に「帝令して雨ふらしむるも、其れ年を足らしめざるか」（合集一〇一三九、図二・一）と「令」字を使い、帝（自然現象を司る最高神）の命を伝える。⁽¹³⁾ 西周金文、穆王期前後とされる班簋（集成四三四一、図二・二）には七回「令」字が出現するがいずれも「命」で読むものである。西周晩期、夷厲の頃という小克鼎（集成二七九六）には「命」・「令」が混在し、厲王期の禹鼎（集成二八三三）・多友鼎（集成二八三五、図二・三）には「命」を使用する。⁽¹⁴⁾ 三晋系では、侯馬盟書に「平時の命」（二五六、一、図二・四）とあり、中山王方壺（集成九七三五、図二・五）に「中山王譽、相邦調に命ず」とある。⁽¹⁵⁾

図二 甲骨・金文に見える「命」字



図版出典(図は一部加工を加えている)

- ①甲骨文(合集一〇一三九)
- ②班簋(集成四三四一)
- ③多友鼎(集成二八三五)
- ④侯馬盟書(二五六一一)
- ⑤中山王方壺(集成九七三五)

三晋銅器の「命」字を整理するにあたり、大きく三類に区分した。「命」を使用するA類、「倫」を使用するB類、「命」を使用するC類である。いずれも銅器製造の監督者である県令の意味で使用されている。なお、この意味で三晋銅器は「令」字を使用しない。A類は文字の書き方の特徴により、さらに三式に区分した。序の三番に記した文例(辞銘格式)の問題に関わるが、韓国兵器は「命」字を多用し、魏・趙両国はあまり使用しない。また「命」字は兵器銘文に多く、容器・雑器銘文に少ない。

「命」字出現回数は二二〇回(うち二回は複数回出現)、「命」字のない銅器は一〇八件(偽刻を除く)、「命」字の判別が困難な器物は一〇件である。

A類1式 三五件(韓二件、魏一件、未定二件)「命」字を使い、その文字の構成において「口」が上、「口」が下、上下関係である。韓・魏兵器に多く見える。二三番、二九番、五八番、一二三番「表三」命」字編年表参照、

二二四番「表三」、二二七番は韓器、一二一番、二八番「表三」、四五番、二四六番は魏器である。韓器は戦国中後期を通じて本型式を使用する。三二番、四四番、五二番「表三」は、「匚」の右はらいに個性があり、書きくせとも捉えられるかもしれないが、韓国兵器に比較的認められる。後述のA類3式とB類にも関わる。

A類2式 二五件（韓二二件、魏一〇件、趙一件、未定二件）「命」字を使い、その文字の構成において「匚」が「口」に覆いかぶさるように配置される。上下関係という点ではA類1式と同様である。一八番、四二番、一九七番、二二八番「表三」などが典型的な字形である。三三番、一四三番「表三」、一四五番は韓器、四一番、二二五番、二二六番は魏器である。本類型の四二番、四三番、二二二番「表三」はいずれも「吉」地製造であり、そうした地域性が窺えるかどうかは、別の課題である（なお、もう一件知られる「吉」製造の九番はA類3式である）。

A類3式 一八件（韓二件、魏五件、趙七件、未定四件）「命」字を使い、その文字の構成において「匚」と「口」が平行関係にある。九番、十五番「表三」はともに魏器である。典型的なA類3式である。二七番は「匚」の下部が欠けているとはいえず、本型式と見てよいだろう。A類1、2式にほとんど見られなかった趙器がこの平行関係の「命」を使用している点、特色である（三〇番、一九〇番「表三」）¹⁶。

B類 三五件（韓二四件、趙一件）「倫」字を使用する。五七番「表三」、六七番、七七番「表三」はいずれも鄭韓故城出土の兵器である¹⁷。その他、戦国韓、地方の司寇監造兵器に見られる（一四六番、一五一番、一八一番、二二一¹⁸番）。本類型は韓・趙ともに前三世紀に集中し、また魏器に見られない。「倫」字の使用は、蘇輝氏にすでに指摘がある通り、韓器の特色である¹⁹。ただし、もともと「命」を使用する趙器が二〇件たらずの中でこの字形を半数以上使用するのだから、趙器の特色ともいえるものである（五五番、八六番「ともに表三」）。なお、趙器においてはぎょうにんべんに従うものもある（九八番、一五七番）。

C類 七件（魏六件、趙一件）「斡」を使用する。一九番「表三」は戦国中期前段、一七番「表三」は戦国中期後段の魏国兵器である。⁽²⁰⁾ 本字形は「立」に従い「命」に従う。これも蘇氏の述べる通り、魏器の特色と考えてよい。⁽²¹⁾（四六番、四七番、一三四番）。趙器にも一件見られる（五三番「表三」）。

(3) 三晋紀年銅器銘文に見える「庫」字の分類

『説文』巻九下に「兵車の蔵なり。車に従い戸の下に在り」という。甲骨・西周金文には見られないようであり、『金文編』も朝歌右庫戈（集成一一一八二）と右庫戈（集成一〇九三三、図三・五）を収録するが、いずれも戦国のものである。⁽²²⁾

鄭韓故城出土の銅兵器に「奠（鄭）右庫」（集成一〇九九五、図三・四）、「奠（鄭）武庫」などの銘文が知られており、本稿収録の紀年兵器に先行する器物である。戦国三晋の銘文に見える「庫」とは武器の収蔵庫であるばかりでなく、製造の場でもある。

本稿は「庫」の分類については、大きく五類に分類する黄盛璋氏の研究を参考にしつつ、修正を加えた。⁽²³⁾ 黄氏は三晋・東周の「庫」字の書き方を（一）～（五）に分類する。（一）・（二）についてはそのまま継承し（本稿はA類・B類とする）、（三）は細分化した（本稿C類）。（四）「庫」は本稿整理の銘文の中には存在しない。氏は例として右庫戈と朝歌右庫戈をあげているが（前述）、屋根の反りは中後期に見られず、（二）の中で処理する。（五）「庫」に作る例も漢代の上党武庫矛（図三・六）に見られる字形で、本稿には基本的に出現しない。行論の都合、（四）はD類、（五）はE類とする。

「庫」字出現回数は二三二回（うち六回は複数回出現）、「庫」字のない銅器は一〇四件（偽刻を除く）、「庫」字の判別が困難な器物は六件である。

図三 戦国期の「庫」字



図版出典（図は一部加工を加えている）

- ① 陰平左庫劍（集成一一六〇九）∥ A類
- ② 陰晋左庫戈（集成一一一三五）∥ B類 1式
- ③ 東周左庫矛（集成一一五〇四）∥ B類 2式
- ④ 鄭右庫戈（集成一〇九九五）∥ C類 4式
- ⑤ 右庫戈（集成一〇九三三）∥ D類
- ⑥ 上党武庫矛（集成一一五〇〇）∥ E類

A類 一一件（韓四件、魏一件、趙五件、未定一件）、「尸」に従う。宅陽の地名をもつ三器（韓器。七四番、二二番、二二八番【内】「表四」）がいずれもA類を使用するのは目立つ点である。一七九番「表四」は「車」字の「田」の部分が逆三角形を描く。八六番「表四」はC類1式の九八番同様に、「庫」の下に合文記号を付す特殊な例である。一一件とも趙器である。

B類 1式 四三件（韓六件、魏一三件、趙二二件、未定二件）、「匸」に従う。本型式は魏と趙に特徴を見る。「庫」字の構成部分である「車」の字形に着目すると、「田」の部分がおわん型になるもの（三五番「表四」、一六〇

番、一九六番)、円形を描くものなどがある(九番、四二番、一九七番、一九九番)。ここにあげた八件はいずれも魏器である。七〇番「表四」、九三番「表四」、一二八番、二〇五番は逆三角形を描き、いずれも趙器である。

B類2式 六件(魏二件、趙四件)、「 \wedge 」に従う。本型式はB類1式の左右反転である。一五五番は戦国前期後段に遡る可能性のある早期の紀年兵器、二二三番「表四」は近年、荊門左冢楚墓から出土した三晋兵器である。²⁴⁾一四八番「表四」は屋根と車の間に「二」が書かれていて、その意味は不明である。

C類1式 一件(韓五件、魏二件、趙四件)、「 \wedge 」に従う。本型式は早期の鄭韓故城出土紀年兵器に見られる(二三番「表四」、三七番、五二番)。韓ではC類1式からC類4式に発展したと考えられる。またC類3式、前三世紀の趙器はC類1式の角が落ちて逆U字を描いたのだらう。

C類2式 六件(韓一件、趙五件)、「 \wedge 」に従う。本型式は趙器に典型を見る(二〇七番「表四」、一一一番「表四」、一二九番、一四七番)。B類あるいはC類1式の頂部が残った形式といえるかもしれない。七六番(韓器)はC類4式を指向した字形であらう。

C類3式 九件(韓四件、趙五件)、「 \cap 」に従う。本型式も趙器に典型を見る(二〇二番、一二二番「表四」、一四番、一三六番)。一五〇番「表四」は中山から趙に入って後、作られた兵器と見られ、製造者の職の名称が「冶」でなく「工」と記されている。²⁵⁾

C類4式 二七件(韓二六件、趙一件)、「 \cap 」に従う。本型式は五六番「表四」、六四番「表四」、七二番、一二三番のキノコ型を特徴とする。鄭韓故城出土の兵器は多くこの型式に従う。八七番、八九番、九〇番は戦国後期韓の地方で作られた司寇監造兵器である。

C類5式 一件(韓九件、魏三件、趙四件)、「 \cap 」あるいは「 \wedge 」に従う。前者は魏器(四三番、七三番、七五

番)・趙器(二七番「表四」、一八八番「表四」、二三七番)に見え、B類1式の角がとれたものか、あるいはC類3式の逆U字の右が短かく書かれたものにも見られる。後者は韓器(六二番、二一三番【背】「表四」、二一六番「表四」、二二〇番)に見え、C類4式のキノコ型の延長上で捉えられる。

C類6式 二件(未定二件)、「」に従う。ともに国別は不明である(四九番、一五二番)。ほかに二〇七番【背】を筆者はE類とする。

(4) 三晋銅器銘文に見える「市(工師)」字の分類

「工師」は睡虎地秦簡の条文を参照にすると、器物製作と工人の管理・教育に責任を負う職である。⁽²⁶⁾ 秦と三晋の銅器銘文の記載方式が近いことから、工師については同様の職責を負う存在であったと推測される。ただし、三晋銅器銘文の「工師」は「工市」と書き、「市」のように合文で記される。

「工師」は『孟子』梁惠王章句下、『荀子』王制篇、『呂氏春秋』季春・孟冬のような戦国・秦の文献に見える官吏である。『春秋左氏伝』に「工正」・「工師」の職が見え(莊公二二年伝・定公一〇年伝)、田齊の祖とされる陳完も齊の桓公より工正に任ぜられたというから(『史記』田敬仲完世家)、これらは春秋時期に遡るものだろう。本稿は純粹に字形の変化に対する関心から、分類を試みた。

「工市」字出現回数は一七五回、「工市」字のない銅器は四八件(偽刻を除く)、「工市」字の判別が困難な器物は一三件である。

「工市」は字形がシンプルであり、下記の型式はおよそすべての構成要素を字形分析の項目に含んでいるので、型

式分類の最後にまとめて国別の所感を述べる（「表五」参照）。

A類1式 「木」に作る。長い縦線の筆画が右に曲がる。この特徴をA類とする。最後に横画（横線）が入るかどうかが、合文記号が入るかどうかで四つの形式に分類する。1式は横画が入り、合文記号が入る。合計二〇件（趙二〇件）。

A類2式 「木」に作る。最後に横画が入り、合文記号は入らない。七件（魏四件、趙三件）。

A類3式 「木」に作る。最後に横画が入らず、合文記号が入る。一九件（韓三件、魏六件、趙九件、未定一件）。

A類4式 「木」に作る。最後に横画が入らず、合文記号も入らない。二三件（韓五件、魏一三件、趙四件、未定一件）。

B類1式 「木」に作る。長い縦線の筆画が左に曲がる。この特徴をB類とする。A類と同様、最後に横画（横線）が入るかどうかが、合文記号が入るかどうかで四つの形式に分類する。1式は横画が入り、合文記号が入る。合計一九件（韓八件、魏一件、趙八件、未定二件）。

B類2式 「木」に作る。最後に横画が入り、合文記号は入らない。一一件（韓三件、魏二件、趙五件、未定一件）。

B類3式 「木」に作る。最後に横画が入らず、合文記号が入る。三四件（韓一七件、魏七件、趙六件、未定四件）。

B類4式 「木」に作る。最後に横画が入らず、合文記号も入らない。二三件（韓二五件、魏六件、未定一件）。

C類1式 「木」に作る。長い縦線の筆画が曲がらず、直線である。この特徴をC類とする。最後に横画（横線）が入るかどうかが、合文記号が入るかどうかで四つの形式に分類する。1式は横画が入り、合文記号が入る。合計六件

（韓一件、趙五件）。

C類2式 「木」に作る。最後に横画が入り、合文記号は入らない。二件（魏一件、趙一件）。

C類3式 「木」に作る。最後に横画が入らず、合文記号が入る。一件（趙一件）。

C類4式 「木」に作る。最後に横画が入らず、合文記号も入らない。三件（趙二件、未定一件）。

D類 「工」「巾」と二文字に作る。つまり合文にならない。八件（韓五件、魏二件、趙一件）。

大きな特徴としては、韓は「巾（工巾）」の縦の線が左に曲がる傾向にあり（つまり本稿のB類。数字としては判別可能な五七件中、四三件で約七五％）、趙は逆に右に曲がる傾向にある（本稿A類。判別可能で偽刻を除いた七十二件中三十六件、約五五％）。趙は韓・魏と比較したとき、C類に特徴を見ることができ、九件（約一三％）存在する。

三国を比較して気がつくことは、A類1式は趙のみ二〇件存在し、韓・魏に見られない。つまり長い縦線の筆画が右に曲がり、最後に横画が入り、また合文記号を加える例は趙にしは見られない、ということである。逆に韓に多数見られるB類4式（一五件）は趙に一件も見られない。総じて韓は最後に横線を加えない傾向にある。

魏はA類4式が最も多く一三件で全体四二件中の約三一％を占めるが、あまり大きな特徴を見出せない。

従来、D類は古い時期の特徴とされ、たしかにそうした側面は見られるのだが、とはいえ韓の五件のうち四件は戦国中期後段から後期の鄭韓兵器の事例であり、機械的に適用できる基準ではない。

おわりに

本稿はここまで中国戦国時代の青銅器銘文を歴史史料として利用していく際に前提となる「史料化」の過程を、字形分類に即して示してきた。具体的には中原に国家を建設した三晋（韓・魏・趙）のものが見られる青銅器銘文（紀年銅器銘文）を整理し、その中で繰り返し出現する「年」・「命」・「庫」・「帀（工市）」・「治」という五文字の分類を試みた（「治」字は旧稿参照²⁷）。最後に、いくつか明瞭に得られた結果をまとめておきたい。

（一）「年」字について、本稿はまず大きく二つの型式に分類した。「年」は「禾に従い、人（あるいは千・壬）に従う」文字であるが、その第一画目の形状に注目し、「×」で表現される部分の交差点に結びつく字形（A類）と「×」の右ななめ上の筆画に連結する字形（B類）とに区別した。そしてA類・B類をさらに「人」に従うか、「千」に従うかでそれぞれ1式と2式に分け、傾向を分析した。その結果、A類1式に韓国銅器銘文の特徴を（六七件中三件、約五一％）、A類2式とB類1式に趙国銅器銘文の特徴を（前者は七〇件中二七件で約三九％、後者は二四件中三四％）、A類に魏国銅器銘文の特徴（七四件中六〇件、約八一％）をそれぞれ見出すことができた。この区分と傾向は、従来の研究ではほとんど知られていなかったものである。

（二）「命」字について、本稿は大きく「命」（A類）・「命」（B類）・「命」（C類）の三種類に分類し、その上で、「命」字を「口」と「冂」の配置関係から上下関係（1式）、覆いかぶさるもの（2式）、平行関係（3式）の三式に区分した。すでに指摘のあるとおり、B類は韓器の特徴であり（六〇件中二四件、四〇％）、C類は魏器の特徴である（三二件中六件、約一九％）。これは比較の議論で、B類は魏器には見られず、C類は韓器には使用されない。一方、これまであまり注目されてこなかった点として、趙器にもB類は多く使用されており、二一件中二一件と過半をこえる。

「命」字の分類も意味のある差異を見出した。たとえば韓ではA類1式が六〇件中二二件（約三七％）とB類と

もに韓器銘文の主流を形成するのに対し、趙器ではA類1式は一件も見えず、A類3式を使用する（七件）。

(三)「庫」字については、「車」を覆う屋根の形状に注目し（現在の字形は「𠂔」に従う）、A類（「𠂔」）・B類（「𠂔」）・C類（本論参照）と大きく三つに区分した。これは黄盛璋氏の研究に基づく分類であったが、本稿はさらにC類を細分化し、一定の特徴を認めることに成功した。とくにC類4式とした「𠂔」のようなキノコ型の字形は鄭韓故城出土兵器に多数見られ、五五件中二六件（約四七％）と韓器銘文の特色を示している。また編年研究の成果をふまえ、本稿はC類1式「𠂔」からC類4式「𠂔」への継承発展の関係を指摘した。こうした型式間の関係を読み解くのは現在の資料条件では容易ではないが、取り組むべき課題である。魏国銅器はB類1式「𠂔」が二一件中一三件（約六二％）を占める。趙国銅器もB類1式が五〇件中二二件（約四四％）と中心となる字形であるが、C類3式「𠂔」の逆U字型にやや特色を見る（五件）。

(四)「市（工市）」字について、本稿は縦の長い字画（線）が右に曲がるか、左に曲がるか、あるいは直線かで、A類・B類・C類に分類した。そしてそれぞれについて、最後に一本横画（横線）が入るかどうか、合文記号（「二」の記号）が入るかどうかで、全部入るもの（1式）、横画が入るもの（2式）、合文記号が入るもの（3式）、いずれも入らないもの（4式）に区分した。全部で一二の類型が用意されるが、もう一つ、合文にならないもの（つまり「工」「市」と分けて書かれる。D類）を加えた。結果、韓器は五七件中四三件、左に曲がり（つまりB類、約七五％）、趙器は六五件中三六件で右に曲がり（A類、五五％）、また趙器では魏・韓にほとんど見られない直線が九件（C類、約一四％）存在することが特徴である。さらに細かく見ると、韓器はB類3式「𠂔」・B類4式「𠂔」で三二件と過半を超え、趙器はA類1式「𠂔」に際立った特色を示し（二〇件）、この類型は韓・魏に見られない。

今後、資料が増えてくれば、「年」字の項で指摘した「𠂔」字の第一画を「𠂔」・「𠂔」・「𠂔」で記すものの差異や、

「庫」字の項で述べた「車」の「田」部の逆三角形型、おわん型、円型などの違いについても、意味を見出すことができるかもしれない。

「はじめに」で述べた通り、これまで三晋銅器銘文の研究では、「冶」字や「造」字などの個性的な文字に注目する研究はなされてきたが、一番の基本字である「年」や「命」・「庫」「市（工市）」といった本稿で取り上げた文字を網羅的に分類する研究はほとんど見られなかった。それは大きな違いを見出しえないと考えられたためと思われるが、実際、本稿の検討に明らかかなように有意味な差異を認められるのである。筆者は本稿において陸統と発見・紹介される新資料の解読や現在なお性格不明な器物の研究を推し進めるための基本データ、あるいはその視座を提供したつもりである。

本研究は、おそらくは偏旁の付加に関して漢字史の問題や銘文の書き手、銅器銘文を誰が書いたのか、という問題、そして漢字使用の地域性や筆跡個性（筆癖）など、さまざまな課題に展開する可能性をもっていると思う。また字形の研究は偽刻を見分ける際の一つの基準にもなりうる。

ただし、注意していただきたいのは、筆者はこれによって機械的に時期や国別を判断できると考えているのではなく、作成した編年表も参考資料の域に留まる。資料の国別・断代は前述の一〇の基準を総合してなされるものであり、甲骨文の貞人説のような重要な基準もそれぞれの資料で存在するが、ともかく、それほど単純な議論ではなく、本稿はあくまで字形の側面から出土資料の「史料化」に貢献しようとする次第である。大方の教示を期待したい。

本研究成果は平成二二年度科学研究費補助金若手研究（B）「戦国文字と記録媒体に関する基礎的研究―戦国史像の再構築―」の成果の一部である。

略称・主要参考文献一覧

- 温県盟書 河南省文物研究所「河南温県東周盟誓遺址一号坎発掘簡報」『文物』一九八三年第三期。
- 九州 吳振武「新見古兵地名考釈両則」『九州』第三輯、商務印書館、二〇〇三年。
- 金文通釈 白川静『金文通釈』巻一〜巻七（一九六四〜一九八四）、平凡社、二〇〇四〜二〇〇五年（白川静著作集別巻）。
- 荊門左冢楚墓 湖北省文物考古研究所・荊門市博物館・襄荊高速公路考古隊編『荊門左冢楚墓』文物出版社、二〇〇六年。
- 国別特質 江村治樹「戦国時代出土文字資料の国別特質」（一九八五年、同『春秋戦国秦漢時代出土文字資料の研究』汲古書院、二〇〇〇年）。
- 古越閣 王振華『古越閣蔵 商周青銅兵器』古越閣、一九九三年。
- 古文字詁林 『古文字詁林』第一冊〜第二冊、上海教育出版社、一九九九年。
- 侯馬盟書 山西省文物工作委员会編『侯馬盟書』文物出版社、一九七六年（増訂本、山西古籍出版社、二〇〇六年）。
- 合集 郭沫若主編『甲骨文合集』第一冊〜第三冊、中華書局、一九七八〜一九八二年。
- 字統 白川静『新訂字統』平凡社、二〇〇四年。
- 周金 鄒安『周金文存』六卷、一九二一年。
- 集成 中国社会科学院考古研究所編『殷周金文集成』第一冊〜第一八冊、中華書局、一九八四〜一九九六年（同『修訂増補本』第一冊〜第八冊、二〇〇七年）。
- 小校 劉体智『小校經閣金石文字』一八卷、一九三五年（『引得本』全六冊、大通書局、一九七九年）。
- 商周金文 王輝『商周金文』文物出版社、二〇〇六年。
- 新収 鍾柏生・陳昭容・黄銘崇・袁国華『新収殷周青銅器銘文暨器影彙編』全三冊、台北・芸文印書館、二〇〇六年。
- 新出青銅器研究 李学勤『新出青銅器研究』文物出版社、一九九〇年。
- 秦出土文献編年 饒宗頤主編・王輝著『秦出土文献編年』新文豐出版、二〇〇〇年。
- 信平君鉞考 吳振武「趙十六年守信平君鉞考」張光裕等編『第三屆國際中国古文字学研討会論文集』香港中文大学中国文化研

究所・中国語言及文学系、一九九七年。

説文 [漢] 許慎撰『説文解字』(一九六三、附檢字影印本) 中華書局、二〇〇九年。

説文新義 白川静『説文新義』第一冊〜第八冊(一九六九〜一九七四)、平凡社、二〇〇二〜二〇〇三年(白川静著作集別卷)。

戦国題銘 董珊『戦国題銘与工官制度』北京大学博士研究生學位論文、二〇〇二年。

総覧三 林巴奈夫『春秋戦国時代青銅器の研究』吉川弘文館、一九八九年。

珍秦斎 蕭春源輯『珍秦斎藏金—吳越三晋篇』澳門基金会、二〇〇八年。

武陵 張光裕・呉振武『武陵新見古兵三十六器集録』『中国文化研究所学報』第六期、一九九七年。

銘文選 上海博物館商周青銅器銘文選編写組編『商周青銅器銘文選』第一冊〜第四冊、文物出版社、一九八六〜一九九〇年。

陽城令戈考 何琳儀・焦智勤『八年陽城令戈考』『古文字研究』第二六輯、中華書局、二〇〇六年。

表一 出典欄の参考文献

ア 四川省文物考古研究所・榮経嚴道古城遺址博物館「榮経県同心村巴蜀船棺葬発掘報告」四川省文物考古研究所『四川考古報告集』文物出版社、一九九八年(表紙、二四一〜二四三頁)

イ 黄錫全「新見宜陽銅戈考論」『考古与文物』二〇〇二年第二期(董珊模本)

ウ・エ 陽城令戈考(ウ⇨徵収品、エ⇨新鄭出土)

オ・カ・コ 韓自強「過眼雲煙」記新見五件晋系銘文兵器『古文字研究』第二七輯、中華書局、二〇〇八年

キ 呉振武「新見十八年冢子韓嬪戈研究」兼論戦国『冢子』一官的職掌『古文字与古代史』第一輯、二〇〇七年

ク 黄錫全「紹介一件韓廿年冢子戈」『古文字研究』第二七輯、中華書局、二〇〇八年

ケ 荆門左冢楚墓六八六頁

サ 李朝遠「汝陰令戈小考」『中国文字研究』一、広西教育出版社、一九九九年。九州

シ「説網上新見の両件戦国魏「首垣」銅器」復旦大学出土文献与古文字研究中心網、二〇〇九年五月二二日

ス 古越閣

セ 黄盛璋「新発現之三晋兵器及其相關の問題」『文博』一九八七年第二期

中国戦国時期青銅器銘文の史料化に関する一試論(下田)

- ソ 王輝・王沛「二年平陶令戈跋」『考古与文物』二〇〇七年第六期
 タ 吳鎮烽・師小群「三年大將吏弩機考」『文物』二〇〇六年第四期
 チ 李学勤『四海尋珍』清華大学出版社、一九九八年、九四頁
 ツ 吳鎮烽「六年相室趙嬰鼎考」『考古与文物』二〇〇八年第五期
 テ 王長啓「西安市文物中心藏戰國秦漢時期的青銅器」『考古与文物』一九九四年第四期
 ト 唐友波「新見涇陽鼎小識」『上海博物館集刊』上海書畫出版社、二〇〇二年
 ナ 蔡運章・趙曉軍「三年垣上官鼎銘考略」『文物』二〇〇五年第八期、新収三六七
 ニ 蔡運章・趙曉軍・戴霖「論右冢鼎銘及其相關問題」『文物』二〇〇四年第九期、新収三八〇
 ヌ 李学勤「滎陽上官皿与安邑下官鍾」『文物』二〇〇三年第一〇期、新収二七三七
 ネ 旅順博物館編『旅順博物館藏文物選萃・青銅器卷』文物出版社、二〇〇八年、二〇番
 ノ・ハ 尹俊敏・劉富亭「南陽市博物館藏商周銘文銅器介紹」『中原文物』一九九二年第二期
 ヒ 小校一〇・一〇三・四
 フ 小校一〇・五三・一
 ヘ 朱熾・振甫「河南舞陽出土的周、漢兵器」『考古』一九九四年第三期
 ホ 周金六・八〇・二
 マ 小校一〇・七五・一
 メ 小校一〇・一〇二・四
 モ・ヤ・ユ・ヨ 河南省博物館編『河南省博物館藏青銅器選』香港攝影藝術出版社

表二～表五 図版出典一覧

- 集成〔表二 A 1 〓 35、51、52、63、243 A 2 〓 15、28、65、67 A 3 〓 44、62 B 1 〓 19、23、76、123、139 B 2 〓 31〕〔表三
 A 1 〓 28、52、123 A 3 〓 15 B 〓 57、86、55、77 C 〓 17、19、53〕〔表四 A 〓 86 B 1・B 2 〓 35、70、93 C 1 〓 19、33、
 100、119 C 2 〓 107、111 C 3 〓 51、112 C 4 〓 56、64 C 5 〓 27〕〔表五 A 1 〓 70、118 A 2 〓 100 A 3 〓 12、112 A 4 〓 15、

17、41、131 B 1 || 44、45、54、137 B 2 || 55 B 3 || 33、87 B 4 || 23、37、80 C || 27)
 新収〔表二 A 1 || 166 A 2 || 162 B 2 || 143、148、156〕〔表三 A 2 || 143 A 3 || 149、182〕〔表四 C 1 || 182 C 3 || 150〕〔表五 A 4 || 144 B 1 || 181 C || 154〕
 珍秦齋〔表四 B 1・B 2 || 211 C 5 || 213〕〔表五 B 2 || 207〕
 信平君鉞考〔表四 A || 179〕陽城令戈考〔表四 C 5 || 216〕九州〔表五 B 3 || 224〕
 武陵〔表三 A 3 || 190〕荊門左冢楚墓〔表三 A 2 || 222〕〔表四 B 1・B 2 || 222〕
 古越閣〔表五 A 2 || 180〕文博一九八七年第二期、五三頁〔表二 A 2 || 227〕
 考古与文物一九八九年第三期、二一頁〔表四 B 1・B 2 || 148〕
 筆者模本〔表二 A 2 || 118、B 1 || 129〕〔表三 A 1 || 214 A 2 || 218〕〔表四 C 5 || 188〕〔表五 C || 132〕

注

- (1) 陳黎『商周金文』文物出版社、二〇〇六年、二一三頁。
- (2) 董作賓「甲骨文斷代研究例」(一九三三)『董作賓卷』(中國現代學術經典)河北教育出版社、一九九六年。
- (3) 拙稿「戰國韓の有銘青銅兵器について(補論)——「冶」字の分類を兼ねて——」太田幸男・多田狷介編『中國前近代史論集』汲古書院、二〇〇七年。同「再論二晋「冶」字」『古文字研究』第二七輯、二〇〇八年。
- (4) 李学勤「評陳夢家殷墟卜辭綜述」『考古學報』一九五七年第三期。黄天樹『殷墟王卜辭的分類与断代』(一九九一)科学出版社、二〇〇七年、二頁。
- (5) 拙著『中国古代国家の形成と青銅兵器』汲古書院、二〇〇八年。「冶」「造」に関する黄盛璋・林清源両氏の研究については拙著三四頁、四二頁参照。
- (6) 三晋銅器銘文について、拙著刊行後の重要な成果としては湯志彪『三晋文字編』(吉林大学博士学位論文、二〇〇九年)をあげられる。個別論文は省略する。平勢隆郎『春秋晋国「侯馬盟書」字体通覽——山西省出土文字資料——』(東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター、一九八八年)は字形と書き手に注目した研究である。字体・字形・書体の違いについては同書一六頁参照。

- (7) 説文新義卷七上、九三頁。書誌情報は略称一覽参照。
- (8) 金文銘について、考釈はおもに次のものを参照した。頌壺（金文通釈一三七、銘文選四三六、商周金文五四）、曾伯霩簋（金文通釈二二六、銘文選六九一、総覧③一二頁）、邾公榘鐘（金文通釈二二三、銘文選八二六）。
- (9) 中山王罍鼎（銘文選八八〇、総覧③三四頁、新出青銅器研究一八一～一八六頁）、十五年上郡守戈（秦出土文獻編年七四、國別特質二四六～二四七頁）。また中山王墓出土青銅器については、小南一郎「中山王陵三器銘とその時代背景」林巳奈夫編『戦国時代出土文物の研究』（京都大学人文科学研究所、一九八五年）参照。
- (10) 本稿の時期区分は拙著同様、林巳奈夫氏の区分に従う。つまり紀元前五世紀中頃から前四世紀中頃を戦国前期、前四世紀中頃から前三世紀中頃を中期、前三世紀中頃から前二二一年と統一秦期を合わせて戦国後期とする。また前期・中期をそれぞれ前段・後段に分ける（総覧③一一頁）。
- (11) 袁国華「包山楚簡文字考釈」常宗豪ほか編『第二屆國際中國古文字學研討會論文集』問學社有限公司、一九九三年。湖北省荊沙鐵路考古隊編『包山楚簡』文物出版社、一九九一年。
- (12) 説文新義卷二上、五五～五六頁。
- (13) 白川静『甲骨文の世界』平凡社、一九七二年、四八頁。孟世凱『甲骨學辭典』上海人民出版社、二〇〇九年、二九二頁・三六〇頁。
- (14) 班簋（金文通釈七九、銘文選一六八、商周金文二五）、小克鼎（金文通釈一六八、銘文選三〇六）、禹鼎（金文通釈一六一、銘文選四〇七、商周金文四九）、多友鼎（銘文選四〇八、商周金文五〇）。
- (15) 中山王方壺（銘文選八八一、新出青銅器研究一七六～一八〇頁）。
- (16) 本稿は模本も使用したが、とくに三〇番のように模本しか見られない器物については注意を要する。本稿のように筆画の細部の特徴に言及する場合、模本の書き手はそこまで意識をしていない可能性もあり、一定の限界がある。
- (17) 郝本性「新鄭『鄭韓故城』発現一批戦国銅兵器」『文物』一九七二年第一〇期。
- (18) 司寇監造兵器については、前掲注五拙著第二章を参照。
- (19) 蘇輝「韓国紀年兵器研究」『中国社会科学院歴史研究所学刊』第三集、商務印書館、二〇〇四年、一一七頁。
- (20) 一七番の編年については江村治樹氏の指摘の通り、再考を要し、本稿ではひとまずII Bとした（書評 下田誠『中国古代

- 国家の形成と青銅兵器』『歴史学研究』八五五、二〇〇九年、五四頁。
- (21) 蘇輝「魏国紀年兵器研究」『中国古代文明研究与学术史—李学勤教授伉儷七十寿慶紀念文集』河北大学出版社、二〇〇六年、九七頁。
- (22) 容庚編『金文編』（四訂本）中華書局、一九八五年、六五七頁。
- (23) 黄茂琳（黄盛璋）「新鄭出土戰国兵器中的一些問題」『考古』一九七三年第六期、三三三頁（『歷史地理与考古論叢』齊魯書社、一九八二年、一五一頁）。
- (24) 荊門左冢楚墓、図三九（M1出土銅器）・図版一五。
- (25) 戦国題銘四四頁。李学勤「論一件中山国有銘銅戈」『古文字与古代史』（中央研究院歷史語言研究所會議論文集之九）第二輯、二〇〇九年、二一六頁。
- (26) 角谷定俊「秦における青銅工業の一考察—工官を中心に—」『駿台史学』五五、一九八二年。睡虎地秦墓竹簡整理小組編『睡虎地秦墓竹簡』文物出版社、一九九〇年。
- (27) 前掲注三拙稿「戦国韓の有銘青銅兵器について（補論）—『冶』字の分類を兼ねて—」・「再論三晋『冶』字」。

（史学科 助教）

〔表一の凡例〕

- 一、表の内容について、1～141は集成収録の三晋紀年兵器、141～194は新収収録の三晋紀年兵器、195～213は珍秦齋収録の三晋紀年兵器、214～230はそれ以外の雑誌・図書に収録された三晋紀年兵器、231～250は集成収録の三晋紀年銅容器と雜器、251～257はそれ以外の雑誌・図書に収録された三晋紀年銅容器と雜器である。
- 二、器名は収録誌の名称を尊重したが、異なる名称で通用しているものについては別にあげた。
- 三、器名欄に記した▲は偽刻が疑われている銅器である。
- 四、国別と年代は先行研究と筆者の研究成果をふまえ、筆者の判断を参考までに記すものである。◎は旧稿の考えを改めた所を示す。
- 五、国別欄の「未」とは未定を意味し、三晋系（中山・東周を含む）の器物と判断されるが、国別が未定のものを指す。
- 六、時代欄の記号は総覧三によるもので、I・II・IIIは戦国前期・中期・後期を指し、A・Bはその前半・後半を指す。たとえばII Bとは戦国中期後半を指す。本稿注10参照。
- 七、年代は平勢隆郎『新編史記東周年表—中国古代紀年の研究序章』（東京大学出版会、一九九五年）に基づく。
- 八、「年」「命」「庫」「工市」の欄に記したA1などの表記は、A類1式の略称である。
- 九、「年」「命」「庫」「工市」の欄の「—」はその文字が銘文中に存在しないこと、「×」は存在するが判別不能であることを示す。
- 一〇、「冶」の欄は旧稿の成果を吸収し、たとえば19番、国別趙のA30とは本稿注3 拙稿の趙表、A類30番を指す。韓Bなどの記載は拙稿に収録されない銅器銘文の「冶」字を旧稿の基準に基づき判断したもので、韓表のB類に分類されるという意味である。
- 一一、珍秦齋は各器物の最初の頁を記入した。出典欄の（ア）（ヨ）の文献は別に示した。
- 一二、1～141については拙稿「戦国文字・戦国史研究の新发展—殷周金文集成（修訂増補本）の出版と上海博物館所蔵青銅兵器の調査をふまえて—」（『人文』7、二〇〇八年）に18冊本集成と新版集成（二〇〇七年修訂増補本）の間の移動を記している。
- 一三、最後に写真・拓本・模本が非公開であるなど、さまざまな事情により字形分析の困難な器物を一覧しておいた。

表一 三晋紀年銅器一覽

番号	器名	国	時代	集成	年	命	庫	工币	冶
1	二十七年晋戈	魏	II・III	11215	A1	—	—	—	—
2	二十九年戈(※二十九年成淮戈)	未	II・III	11216	A1	—	—	—	韓 B・魏 D
3	十八年鄉左庫戈	魏	II A	11264	A1	—	C1	—	—
4	四年右庫戈	未	II・III	11266	×	—	B1	—	未定 3
5	十四年州戈	魏	II A	11269	A1	—	—	B4	D2
6	七年戈(※七年尋工戈)	未	II・III	11271	A2	—	—	—	未定 4
7	九年戈(※九年工師戈)	未	II	11283	A1	—	—	B3	×
8	奮夫戈	未	II・III	11284	—	—	—	—	未定 5
9	十年邛令差戈	魏	II・III	11291	A1	A3	B1	B3	×
10	三年蒲子戈	魏	II・III	11293	A3	×	—	B3	×
11	二年州句戈	未	II・III	11298	A1	× (?)	—	B3	魏 D
12	二十三年郟令戈	魏	II	11299	A2	A1	—	A3	F2
13	襄戈	魏	II	11300	B1	A2	—	B4	—
14	二十三年口丘戈	未	II	11301	C	—	—	B4	未定 6
15	二十九年高都令戈	魏	前 248	11302	A2	A3	—	A4	B1
16	二十九年高都令戈	魏	前 248	11303	A2	A3	—	A4	魏 B
17	二十一年啓封令癸戈	魏	◎II B	11306	A1	C	—	A4	C5
18	九年戈	未	II・III	11307	A1	A2	—	—	未定 7
19	三十三年業令戈	魏	前 338	11312	B1	C	C1	B4	A2
20	九年戔丘令癸戈	魏	◎II	11313	B1	A1	—	A4	◎魏 F
21	二年皇陽令戈	未	II・III	11314	A2	A3	—	B3	未定 8
22	二年皇陽令戈	未	II・III	11315	A2	A3(?)	—	B3	×
23	四年令韓謹戈	韓	前 308	11316	B1	A1	—	B4	B1
24	三年儲余令韓謹戈	韓	II	11317	A2	A1	—	B1(?)	D1
25	三年儲余令韓謹戈	韓	II	11318	A2	A1	—	B1	D2
26	三年儲余令韓謹戈	韓	II	11319	B2	A1	—	B1	D3
27	六年邛令戈	趙	II B	11320	A2	A3	C5	C1	—
28	三十四年頓丘戈	魏	前 337	11321	A2	A1	—	B3	C6
29	七年俞氏戈	韓	II	11322	A3	A1	—	B3	D4
30	八年茲氏令吳庶戈	趙	II	11323	A2	A3	A	B2	—

31	二十五年戈(※二十五年陽春齋夫戈)	魏	前 346	11324	B2	—	—	A3	D4
32	六年格氏令戈	韓	II	11327	A1	A1	—	B3	B2
33	王二年鄭令戈	韓	前 271	11328	B2	A2	C1	B3	—
34	王何戈	趙	前 298	11329	—	—	—	—	A2
35	三十三年大梁戈	魏	前 338	11330	A1	—	B1	D	D5
36	四年邗令戈	韓	II	11335	A2	A1	A	B1	D5
37	六年鄭令韓熙戈	韓	前 267	11336	A1	A2	C1	B4	B3
38	六年令戈(※六年□司寇書戈)	魏	II・III	11337	A1	—	B1	A4(?)	D6
39	三年□令戈	未	II・III	11338	A2	A1	—	B1	未定 9
40	四年戈	未	II・III	11340	B2	—	—	—	—
41	四年咎奴曹令戈	魏	II A	11341	A2	A2	—	A4	E3
42	□旨令司馬戈	魏	II・III	11343	A1	A2	B1	B4	D7
43	八年旨令戈	魏	II・III	11344	B1	A2	C5	B3	D8
44	八年新城大令戈	韓	◎II A	11345	A3	A1	—	B1	D6
45	十三年□陽令戈	魏	II A	11347	A2	A1	—	B1	F3
46	五年鞆令思戈	魏	II・III	11348	A1	C	B1	A4	C7
47	五年鞆令思戈	魏	II・III	11349	A2	C	B1	A4	A3
48	十六年喜令戈	韓	II	11351	B1	B	B1	B3	B4
49	三年□陶令戈	未	II・III	11354	A1	A1	C6	A3	趙 C(?)
50	十二年趙令戈(※十二年少曲令戈)	韓	II	11355	A3	A3	B1	B1	A1
51	二十四年邗陰令戈	韓	前 340	11356	A1	A2	C3	D	B5
52	王三年鄭令戈	韓	前 270	11357	A1	A1	C1	D	B6
53	元年郢令戈	趙	II B	11360	A1	C	B1	A2	C1
54	二年戈(※二年主父戈)	趙	前 297	11364	A2	—	—	B1	—
55	十七年邢令戈	趙	前 249	11366	A2	B	B1	B2	A3
56	十七年鄭令戈	韓	前 256	11371	A1	A1	C4	B4	C1
57	二十年鄭令戈	韓	前 253	11372	A2	B	C3	D	B7
58	二十一年鄭令戈	韓	前 252	11373	B1	A1	C4	B4	B8
59	王三年馬雍令戈	韓	II	11375	A2	A2	B1	A4	A2
60	十八年戈(※十八年冢子韓贈戈)	韓	前 255	11376	A1	—	C4	—	B9
61	十四年武城令戈	趙	II B	11377	A2	×	×	—	A4

62	十七年甕令戈	韓	前 256	11382	A3	B	C5	A3(?)	A3
63	四年鄭令戈	韓	前 235	11384	A1	B	C4	B4	B10
64	五年鄭令戈	韓	前 234	11385	A1	B	C4	B4	B11
65	八年鄭令戈	韓	前 231	11386	A2	B	C4	A3	B12
66	十四年鄭令戈	韓	前 259	11387	A1	A1	C4	B3	B13
67	十五年鄭令戈	韓	前 258	11388	A2	B	C4	D	B14
68	十六年鄭令戈	韓	前 257	11389	A1	A1	C4	B3	B15
69	□年邦府戈	趙	Ⅱ・Ⅲ	11390	B1	—	B1	C4	A34
70	二十九年相邦趙戈	趙	前 270	11391	B1	—	B1	A1	B2
71	六年鄭令戈	韓	前 233	11397	A1	A1	C4	A4(?)	B16
72	三十一年鄭令戈	韓	前 242	11398	A2	A1	C4	D	韓 A(?)
73	七年邦司寇矛	魏	◎Ⅱ・Ⅲ	11545	A2	—	C5	B2	A4
74	七年宅陽令矛	韓	Ⅱ・Ⅲ	11546	A3	A2	A	A3	A4
75	十二年邦司寇矛	魏	◎Ⅱ・Ⅲ	11549	A2	—	C5	B2	A5
76	九年鄭令矛	韓	前 264	11551	B1	B	C2	B2	C2
77	元年鄭令矛	韓	前 238	11552	A1	B	C4	B4(?)	C3
78	五年鄭令矛	韓	前 234	11553	A1	B	C4	B4	B18
79	七年鄭令矛	韓	前 232	11554	A1	B	C4	B3	B19
80	卅二年鄭令矛	韓	前 241	11555	A1	B	C4	B4	B20
81	元年春平侯矛▲	趙	—	11556	A2	—	B1	A1	B3
82	五年春平侯矛▲	趙	—	11557	B1	—	—	A1	A5
83	十七年春平侯矛▲	趙	—	11558	×	—	—	C1	D3
84	三年鄭令矛	韓	前 236	11559	A1	B	C4	×	韓 B
85	卅四年鄭令矛	韓	前 239	11560	A1	A1	C4	B4	B21
86	閔令趙狼矛（※十一年閔令鉞）	趙	Ⅱ B	11561	A2	B	A	C1	C2
87	六年安陽令矛	韓	前 233	11562	B1	B	C4(?)	B3	B22
88	二年鄭令矛	韓	前 237	11563	B1	B	C4(?)	B3	B23
89	四年雍令矛	韓	前 235	11564	B1	B (?)	C4	A4	B24
90	廿三年司寇矛（※廿三年襄城令矛）	韓	前 250	11565	A1	B	C4	B3	B25
91	四年建信君劍	趙	前 241	11619	A2	—	—	A4	—
92	右庫劍	未	Ⅱ・Ⅲ	11633	B1	—	A	—	—
93	相邦鉞（※武襄君鉞）	趙	Ⅲ	11635	×	—	B1	×	◎趙 B
94	廿九年高都令劍	魏	前 248	11652	A2	A3	—	A4	B2

95	廿九年高都合劍▲	魏	—	11653	A2	A1	—	A4	B3
96	七年劍(※鉞)	趙	ⅡB・Ⅲ	11657	A2	—	B1	A3	A7
97	元年劍(※鉞)	趙	ⅡB・Ⅲ	11660	B1	B	C2	A2	B4
98	三年鉞(※三年隴命鉞)	趙	ⅡB・Ⅲ	11661	A2	B	C1	A1	B5
99	五年相邦春平侯劍(※鉞)▲	趙	—	11662	A1	—	—	A1	A8
100	王立事鉞	趙	ⅡB	11669	—	B	C1	A2	B6
101	守相杜波鉞	趙	前251	11670	—	—	×	×	A9
102	六年安平守鉞	趙	ⅡB・Ⅲ	11671	B1	—	C3	A3	A10
103	七年劍(※鉞)	趙	ⅡB・Ⅲ	11672	B1	—	B1	A3	A11
104	王立事劍▲	趙	—	11673	—	B	A	A1	B7
105	王立事鉞(※王立事南行唐命鉞)▲	趙	—	11674	—	B	C3	A1	B8
106	三年馬師鉞(※三年武丞命鉞)	趙	ⅡB・Ⅲ	11675	A3	B	C1	A3	A12
107	十二年邦司寇劍(※鉞)	趙	前254	11676	A1	—	C2	B1	A13
108	八年相邦劍▲	趙	—	11677	A2	—	B1	A3	B9
109	八年相邦劍▲	趙	—	11678	B1	—	C3	A1	B10
110	八年相邦鉞(※八年相邦建信君鉞)	趙	前237	11679	B1	—	C5	A4(?)	B11
111	八年相邦鉞(※八年相邦建信君鉞)	趙	前237	11680	A2	—	C2	A1	B12
112	八年相邦鉞(※八年相邦建信君鉞)	趙	前237	11681	B1	—	C3	A3	B13
113	二年春平侯鉞	趙	前234	11682	A1	—	B1	A1	B14
114	三年春平侯鉞	趙	前233	11683	B1	—	C3	A3	A14
115	十七年春平侯劍▲	趙	—	11684	B1	—	—	B4(?)	A15
116	十年鉞	趙	Ⅱ・Ⅲ	11685	A1	—	—	A1	A16
117	五年邦司寇劍(※鉞)	趙	前240	11686	A1	—	B1	A1	B15
118	三年相邦建信君鉞	趙	前242	11687	A2	—	B1	A1	B16
119	相邦春平侯鉞	趙	Ⅲ	11688	—	—	C1	A3	B17
120	十七年相邦春平侯鉞	趙	前249	11689	B1	—	—	A1	A17
121	十七年相邦春平侯鉞	趙	前249	11690	B1	—	—	A1	A18
122	十五年春平侯劍▲	趙	—	11691	B1	—	—	A1	A19
123	卅三年鄭令劍(※鉞)	韓	前240	11693	B1	A1	C4	B4	B27
124	四年春平相邦鉞	趙	前232	11694	A2	—	B2	A1	B18

125	四年建信君鉞	趙	前 241	11695	A2	—	B1	A1	B19
126	十七年春平侯劍▲	趙	—	11699	B1	—	—	C4(?)	A20
127	十五年守相杜波劍▲	趙	—	11700	B1(?)	—	B1	B2(?)	A21
128	十五年守相杜波鉞	趙	前 251	11701	×	—	B1	B3	A22
129	十五年守相杜波鉞	趙	前 251	11702	B1	—	C2	D (?)	◎趙 B
130	八年相邦劍▲	趙	—	11706	B1	—	C3	A4(?)	B20
131	四年春平侯鉞	趙	前 232	11707	B1	—	B1	A4	B21
132	十七年春平侯鉞	趙	前 249	11708	B1	—	—	C1	趙 A
133	十五年春平侯劍（※十七年春平侯鉞）	趙	前 249	11709	B1	—	—	B3	A24
134	十八年相邦劍	趙	前 248	11710	B1	—	—	A3	A25
135	十三年鉞（※守相信平君鉞）	趙	Ⅱ B・Ⅲ	11711	B2	—	—	—	A26
136	七年相邦鉞	趙	Ⅱ B・Ⅲ	11712	B1	—	C3	A4	B22
137	十七年春平侯鉞	趙	前 249	11713	B1	—	—	B1	A27
138	十七年春平侯劍(※鉞)	趙	前 249	11714	B1	—	—	C1	◎趙 A
139	十七年春平侯鉞	趙	前 249	11715	B1	—	—	×	◎趙 A
140	十七年春平侯劍（※鉞）▲	趙	—	11716	B2	—	—	C3	A28
141	十八年建信君鉞▲	趙	—	11717	B1	—	C3	A1	趙 B

番号	器名	国	時代	新収	年	命	庫	工市	冶
142	三十年塚子韓春鉞	韓	前 243	295	A1	—	B1/C5	—	—
143	十一年皋落戈	韓	◎Ⅱ A	365	B2	A2	—	C1	D7
144	宜陽戈	韓	Ⅱ A	368	×	×	C3	A4	B30
145	六年陽城令戈	韓	Ⅱ	569	A1	A2	—	B2(?)	B28
146	八年陽翟令矛	韓	Ⅱ B・Ⅲ	583	A1	B	C1	B3	韓 B
147	四年相邦春平侯鉞	趙	前 232	776	B2	—	C2	A1	B25
148	四年代相鉞	趙	前 225	777	B2	—	B2(?)	A1	B24
149	十八年莆反令戈	魏	前 301	977	B2	A3	—	B4	F4
150	十六年寧壽令戟	趙	Ⅱ B	987	B1	B	C3	A3	—
151	十年涇陽令戈（※十年汝陽令戈）	韓	前 263	1090	A1	B	C4	B3	B29
152	六年陀□戈	未	Ⅱ・Ⅲ	1181	A1(?)	×	C6	C4(?)	韓 B・魏 D 等

153	十一年邠令戈	魏	Ⅱ A	1182	A2	A2	—	—	×
154	二十八年上洛左庫戈	魏	Ⅱ A	1183	×	×	B1	C2	E2
155	十四年鄴下庫戈	魏	I B・Ⅱ A	1186	A2	—	B2	—	—
156	十一年房子令趙結戈	趙	Ⅱ B	1299	B2	×	B1	B1	趙 A
157	二年邢令戈	趙	Ⅱ B・Ⅲ	1307	B2	B	C4	B1	B23
158	十九年邦司寇陳授鉞	趙	前 247	1313	B1(?)	—	×	×	趙 B(?)
159	七年大梁司寇綬戈	魏	◎Ⅱ・Ⅲ	1330	A1	—	B1	A3	F5
160	二十四年晋□戈	魏	前 346	1331	A1	×	B1	D	D9
161	五年戈	◎ 魏	Ⅱ・Ⅲ	1383	×	×	—	B3	魏 A・C
162	二十年丞蘭相如戈戟	趙	前 279	1416	A2	—	—	×	A35
163	漁陽鉞(※王立事鉞)	趙	Ⅱ B・Ⅲ	1481	—	B	A	A1	趙 B
164	邠皮戟	趙	前 276	1492	A2	—	B2	B2	—
165	二十七年安陽令戈	韓	前 246	1493	A1	B	C4	×	A5
166	元年閏矛	魏	前 276	1544	A1	—	—	—	—
167	元年相邦建信君鉞	趙	前 244	1548	A1	—	B1	A1	B26
168	二年邦司寇趙或鉞	趙	前 234	1631	A2	—	B1	A1	B28
169	六年相邦司空馬鉞	趙	前 230	1632	×	—	B1	×	趙 B
170	廿年相邦建信君劍▲	趙	—	1775	A2	—	B1	A1	趙 C(?)
171	三年武平令劍▲	趙	—	1776	A1	B	B1	A1	趙 B
172	十二年相邦建信君劍▲	趙	—	1777	A2	—	C2	A1	趙 A
173	六年相邦建信君劍▲	趙	—	1778	B1	—	B1	A1	趙 B
174	十五年相邦春平侯劍▲	趙	—	1779	B1	—	—	C1	趙 A
175	上皋落戈	韓	Ⅱ・Ⅲ	1782	×	A2	—	B1	韓 D
176	十七年春平侯鉞	趙	前 249	1810	×	—	—	C1	A32
177	十八年平国君鉞	趙	前 248	1811	B1(?)	—	—	B3	A31
178	九年京令戈	韓	Ⅱ	1812	A1	A1	×	×	韓 B
179	十六年守相鉞	趙	前 250	1832	B1	—	A	B3	A30
180	二十七年泌陽工師戈	魏	前 344	1872	B2	—	—	A2	魏 B
181	六年襄城令戈(※新収1996重出)	韓	前 233	1900	B1	B	C4	B1	C4
182	二年令竹諱宣陽戈	韓	前 310	1919	B1	A3	C1	B4	B31
183	十四年戈	未	Ⅱ・Ⅲ	1972	A1	×	—	A4	未定 11
184	□陽邑令戈	未	Ⅱ・Ⅲ	1974	×	A3	—	B2	未定 12
185	馬離令戈	未	Ⅱ・Ⅲ	1976	×	A2	B1	×	未定 14

186	十二年負陽令戈	未	Ⅱ・Ⅲ	1977	A1	A3	—	B1	未定 13
187	十一年令少曲慎泉戈	韓	Ⅱ	1978	A1	A1	—	B4	D8
188	三年建信君鉞	趙	前 242	1988	A2	—	C5	A1	×
189	三年藺令戈	趙	Ⅱ B	1991	A2	A3(?)	B1	B1	C3
190	九年藺令戈	趙	Ⅱ B	1992	B2	A3	B1	C3	C4
191	□九年藺令戈	趙	Ⅱ B	1993	A2	A3	×	×	×
192	十九年冢子矛	韓	Ⅱ	1997	A1(?)	—	×	—	×
193	□年芒陽守令虔戈	魏	Ⅱ・Ⅲ	1998	×	A1(?)	—	A4	C8
194	六年大陰令戈	趙	Ⅱ B・Ⅲ	1999	B2	B	B1	B1	C5

番号	器名	国	時代	珍秦	年	命	庫	工币	冶
195	廿一年安邑戈	魏	Ⅱ	92	A2	—	—	—	魏 A
196	廿一年晋或戟	魏	Ⅱ	98	A1	—	B1	A4	×
197	廿七年頓丘戈	魏	前 344	106	A2	A2	B1	A2	魏 C
198	廿八年左庫工師愈戟	魏	前 343	114	B2	—	B1	A2	魏 F
199	卅年左庫工師愈戟	魏	前 341	122	B2	—	B1	A2	魏 F
200	十三年皮氏戟	魏	Ⅱ	130	A2	—	—	—	—
201	十七年相邦卯戈	魏	Ⅱ	136	C	—	—	—	魏 F
202	四年成陰嗇夫戟	魏	Ⅱ	148	A2	—	—	B3	魏 F
203	五年邢令戟	魏	Ⅱ	160	A2	A1	—	A3	魏 E・ 趙 C
204	王二年王垣戟	魏	Ⅱ	166	A2(?)	A2	A	×	魏 A・ C・趙 A
205	廿八年晋陽戟	趙	前 271	196	A2	B	B1	B1	趙 C(?)
206	廿八年陽邑戈	趙	前 271	202	A2	—	—	—	趙 C
207	二年邦司寇鉞【正】【背】	趙	前 234	208	A1/—	—/—	B1/E	B2/—	趙 B/—
208	廿三年皇工秘冒（卅二年相都冉戟）	趙	前 276	218	A2	—	—	—	趙 A
209	韓少夫戟	趙(?)	Ⅱ・Ⅲ	226	—	A3	—	B1	韓 A・ 魏 F
210	七年王子工師戈	韓	Ⅱ・Ⅲ	234	A2	—	—	B4	韓 B
211	廿二年屯留戟	韓	前 251	240	A1	B	B1	B3	韓 D
212	□年宅陽令戟刺	韓	Ⅱ・Ⅲ	246	A2	A2	A	B2	×
213	卅一年鄭令戟【正】／ 四年春成左庫【背】	韓	前 242/ 前 235	256	A1/A1	A2/—	C4/C5	B3/—	韓 B/—

番号	器名	国	時代	出典	年	命	庫	工市	冶
214	七年盧氏令戈	韓	◎前327	ア	×	A1	—	×	韓 A
215	二年宜陽戈	韓	前310	イ	B2	A2	C3	B3	B32
216	八年陽城令戈	韓	前265	ウ	A1	A1	C5	B3	韓 B
217	八年陽城令戈	韓	Ⅱ・Ⅲ	エ	A1	A1	—	B4(?)	韓 B・C
218	十年宅陽令陽登戟 【内】(※七年)／廿 六年宅陽右庫【胡】	韓	前266/ 前247	オ	A1/A2	A2/—	A/B1	A4/—	×/—
219	二年梁令長戟束	韓	前237	カ	A1	B	C5	B3	韓 B
220	十八年冢子戈	韓	前255	キ	A2	—	C5 (2 回)	—	韓 A
221	廿年冢子戈	韓	前253	ク	A3	—	C5 (2 回)	—	韓 A
222	二十四年旨令戈	魏・ (韓)	Ⅱ	ケ	A1	A2	B2	B4(?)	魏 D・ 韓 B
223	廿七年涑鄆戈	魏	Ⅱ	コ	B2	—	—	—	魏 A
224	卅三年陔陰令戈	魏	前338	サ	A1	A1	—	B3	D10
225	八年首垣令戈	魏	Ⅱ・Ⅲ	シ	A2	A2	—	A4	魏 F
226	七年武城相邦戟	趙	Ⅱ・Ⅲ	ス	B1	—	—	B2(?)	趙 A
227	六年代相鉞	趙	前223	セ	A1	—	B2	A1	B27
228	二年平陶令戈	趙	Ⅱ B	ソ	A2	A3	—	C4	趙 C
229	三年大将弩機	趙	前233	タ	B2	—	—	—	—
230	十七年春平侯鉞	趙	前249	チ	A1(?)	—	—	B3	A33

番号	器名	国	時代	集成	年	命	庫	工市	冶
231	十年弗官容籛鼎	魏	Ⅱ・Ⅲ	2240	A1	—	—	—	—
232	二年盩鼎(※二年寧鼎)	魏	Ⅱ・Ⅲ	2481	A1	—	—	—	C1
233	四年昌国鼎	趙	Ⅱ・Ⅲ	2482	A2	—	—	A4	A1
234	卅年鼎	魏	前341	2527	A1 (2 回)	C (2 回)	—	—	C2 (2 回)
235	十七年平陰鼎蓋	魏	Ⅱ	2577	A1	—	—	A3	C3
236	十三年上官鼎(※十 三年梁陰鼎)	魏	Ⅱ・Ⅲ	2590	A1	A2	—	—	D1
237	十一年庫番夫鼎	趙	Ⅱ・Ⅲ	2608	A2	—	C5	—	—
238	廿七年大梁司寇鼎	魏	Ⅱ	2609	A1	—	—	—	—
239	廿七年大梁司寇鼎	魏	Ⅱ	2610	A1	—	—	—	—








240	卅五年鼎【蓋】【器】	魏	前 336	2611	A2 (2回)	A1 (2回)	—	—	C9
241	廿三年稟朝鼎 (※十九年合陽鼎)	魏	II	2693	A2【蓋】 B2【器】	—	—	—	—
242	梁十九年亡智鼎	魏	II	2746	A2 (2回)	—	—	—	—
243	卅二年坪安君鼎	魏・(衛)	前 244	2764	A1 (2回)	—	—	—	F9
244	信安君鼎	魏	II	2773	A1 (2回)	—	—	—	F7【器】 F8【蓋】
245	坪安君鼎	魏・(衛)	前 244	2793	A1 (4回)	—	—	—	魏 F (2回)
246	卅五年盃	魏	前 336	9449	A1	A1	—	—	C10
247	安邑下官壺 (※鍾)	魏	II	9707	A2	—	—	—	C4
248	廿七年釶	魏	II	9997	A2	—	—	—	—
249	司馬成公權	趙	II・III	10385	A2	A2	A	C2	—
250	三年杖首	趙	II・III	10465	A1	—	—	—	B1

番号	器名	国	時代	出典	年	命	庫	工市	冶
251	六年相室趙夔鼎	趙	II・III	ツ	A2	—	—	C1	趙 A
252	九年承匡令鼎	魏	II・III	テ	A2	A1	—	A3	魏 F
253	湏陟鼎	魏	II・III	ト	A2	—	—	—	—
254	三年垣上官鼎	魏	II・III	ナ	B2	—	—	—	—
255	右冏鼎	魏	II・III	ニ	A2	—	—	A4	—
256	蔡陽上官皿	韓	II・III	ヌ	A2	—	—	—	—
257	十四年成舉令鼎	韓	II	ネ	A1	B	—	—	—

字形分析の困難な三晋紀年青銅器

番号	器名	国	出典	番号	器名	国	出典
258	王二年成算車轄	韓	ノ	265	八年相邦建信君矛▲	趙	ミ
259	卅□年王右庫工師車轄	未定	ハ	266	八年春平侯矛	趙	ム
260	三年建信君鉞	趙	ヒ	267	元年春平侯劍	趙	メ
261	王三年陽人令戈	韓	フ	268	十七年安成令矛	韓	モ
262	王十二年戟	韓	ヘ	269	十九年雍氏矛	韓	ヤ
263	三年相邦建信君矛▲	趙	ホ	270	十六年陽翟令戈	韓	ユ
264	二年春平侯矛	趙	マ	271	漚沢君七年戈	韓	ヨ

B1		B2	
			
23 韓 前 308	19 魏 前 338	143 韓 II A	31 魏 前 346
			
76 韓 前 264	129 趙 前 251		156 趙 II B
			
123 韓 前 240	139 趙 前 249		148 趙 前 225









B		C	
			
		19 魏 前 338	
			
57 韓 前 253	86 趙 II B	17 魏 II B	53 趙 II B
			
77 韓 前 238	55 趙 前 249		



表二 「年」字編年表

	A1		A2		A3	
前 350 戦国中期前半 (II A)						
	51 韓 前 340	35 魏 前 338		28 魏 前 337		44 韓 II A
前 300 戦国中期後半 (II B)						
	52 韓 前 270	166 魏 前 276	67 韓 前 258		162 趙 前 279	62 韓 前 256
前 250 戦国後期 (III) 前 221						
	63 韓 前 235	243 魏 前 244	227 趙 前 223	65 韓 前 231	15 魏 前 248	118 趙 前 242

表三 「命」字編年表

	A1		A2		A3	
前 350 戦国中期前半 (II A)						
	214 韓 前 327	28 魏 前 337	143 韓 II A	222 魏 II A	182 韓 前 310	149 魏 前 301
前 300 戦国中期後半 (II B)						
	52 韓 前 270		218 韓 前 266			190 趙 II B
前 250 戦国後期 (III) 前 221						
	123 韓 前 240				15 魏 前 248	

C2	C3	C4	C5	
	 51 韓 前 339			
 107 趙 前 254	 150 趙 II B	 56 韓 前 256	 27 趙 II B	 216 韓 前 265
 111 趙 前 237	 112 趙 前 237	 64 韓 前 234	 188 趙 前 242	 213 韓 前 235

B1		B2	B3	B4	C
 44 韓 II A	 45 魏 II A		 224 魏 前 338	 23 韓 前 308	 <C2> 154 魏 前 338
	 54 趙 前 297	 55 趙 前 249	 33 韓 前 271	 37 韓 前 267	 <C1> 27 趙 II B
 181 韓 前 233	 137 趙 前 249	 207 趙 前 234	 87 韓 前 233	 80 韓 前 241	 <C1> 132 趙 前 249

表四 「庫」字編年表

	A		B1・B2		C1	
前 350 戦国中期前 半（Ⅱ A）						
			35 魏 前 338	222 魏 Ⅱ A	182 韓 前 310	19 魏 前 338
前 300 戦国中期後 半（Ⅱ B）						
	218 韓 前 266	86 趙 Ⅱ B	211 韓 前 251	70 趙 前 270	33 韓 前 271	100 趙 Ⅱ B
前 250 戦国後期 （Ⅲ） 前 221						
		179 趙 前 250	93 趙 Ⅲ	148 趙 前 225		119 趙 Ⅲ

表五 「工市」字編年表

	A1	A2	A3	A4	
前 350 戦国中期前 半（Ⅱ A）					
		180 魏 前 344		41 魏 Ⅱ A	144 韓 Ⅱ A
前 300 戦国中期後 半（Ⅱ B）			12 魏 Ⅱ		
	70 趙 前 270	100 趙 Ⅱ B		17 魏 Ⅱ B	
前 250 戦国後期 （Ⅲ） 前 221					
	118 趙 前 242		112 趙 前 237	15 魏 前 248	131 趙 前 232